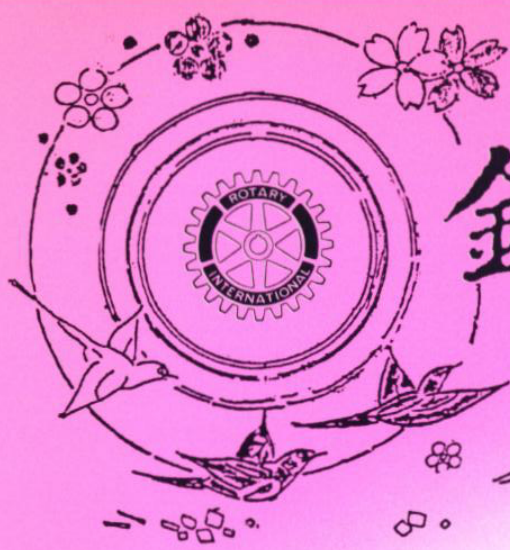
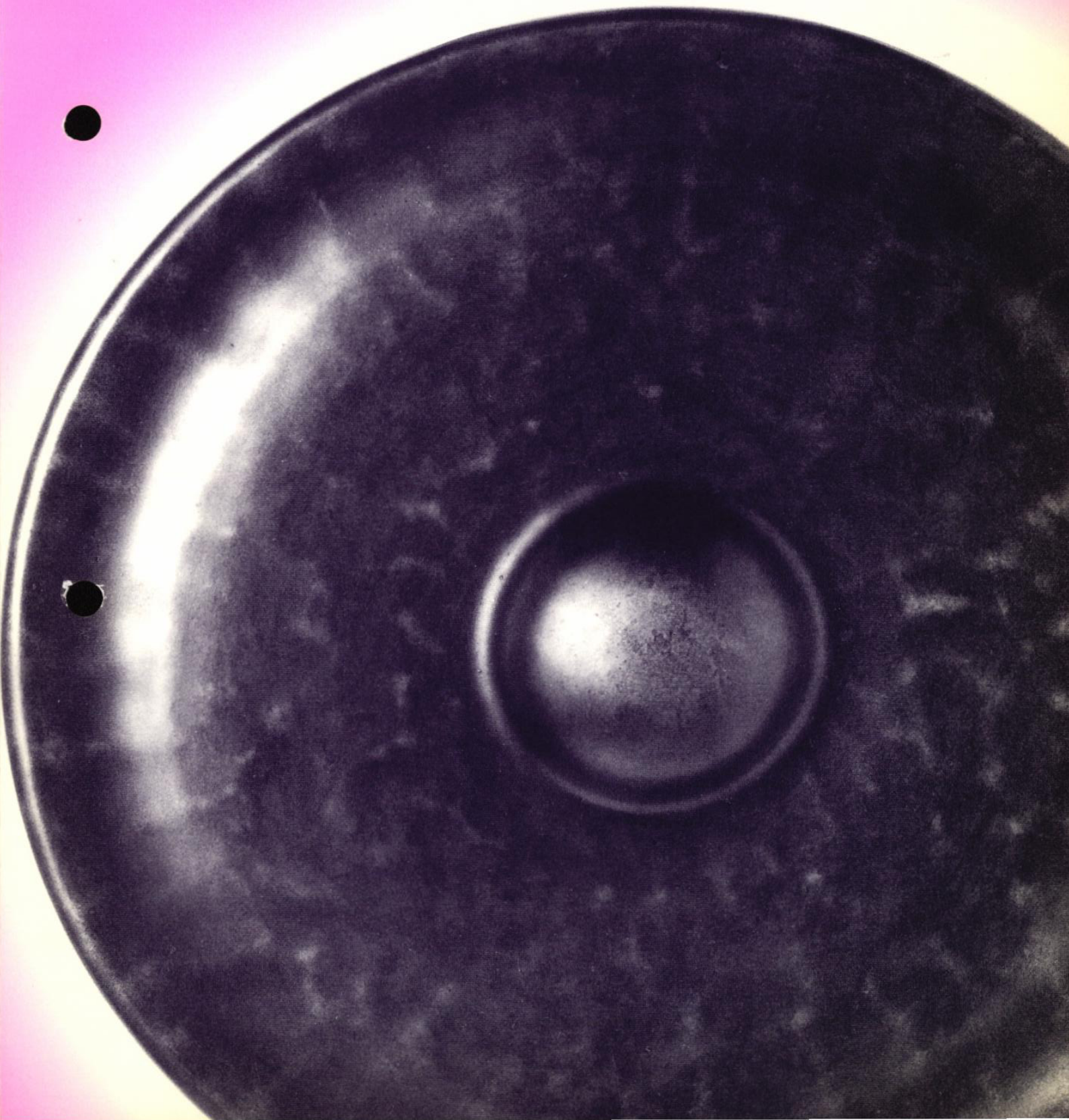


ROTARY CLUB OF **KANAZAWA-NORTH**

1995年1月19日 第527号



金澤北ロータリークラブ



石川県内の巨樹名木

石川県巨樹の会

常務理事 田中敏之氏



今から二千年位前の石川県は、まず海のまわりには塩に強いという事でクロマツが自然に生えている訳です。それから少し内陸の方に入って金沢平野あたりがタブの木で全体におおわれていたといわれています。そして少し高い所がウラジログシ、さらにその奥の手取、白山は標高が高く寒い訳ですからブナの木が主体になっていたという事です。今はまったく変わらしてタブ、ウラジログシはコナラ林とかアカマツ林とかになっております。今なお残っていますのは加賀市と福井県の境にありますカシマの森とか白山のブナ林です。ブナは高い所にありますので能登半島でも石動山、高洲山、宝立山の頂上あたりに自然に残っております。

次に各地の巨樹名木を少し並べてみます。

山中町のカヤノの大杉……直径2m。昭和天皇が初めてこういう大きな木をみられたという事で天覧の杉ともいう。

尾口村のブナ林……肌の白いブナ林で手取では水源のだいじな林です。

白峰村の大トチ……平成元年の環境庁の調査で日本一の大きさです。

神明社のケヤキ……金沢のいわゆるお神明さんの御神木。おそらく石川県では一番大きいケヤキです。

鹿西のタブの木……木に鎌が打ち込んであり、樹皮が鎌を包み込んでいます。鎌を打って台風前の二百十日の気を鎮め、風を和らげ、豊穰になるように祈るという古い文化が残っている。

この他、いろいろありますが実際に現地に行きますと、風があつたり日陰があつたりしてすばらしいものでございます。この様な原生林等は、神社とか鎮守の森として残っていますが神社の一角が駐車場になったりしまして減りつつあります。原生林はいろいろな面において大事でございますので我々はふやしたいと考え、いろんな事をやっております。

何百年という歴史、文化をもって我々にいろいろな事を教えている巨樹名木でありますので皆さんの御協力によりまして大事にさせていただきたいと思っております。

—金沢北RC例会講話より— (文責 二塚長生)



二塚長生会員画

第1052回例会 金沢7RC新年合同例会

◆1月6日(金) 12:30～14:00 ホテル日航金沢

1. 例会

点 鐘 金沢北RC会長 乙村 舜吉

君が代 斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」

R I テーマソング「友達になろう」

金沢7RC会長代表挨拶

金沢北RC会長 乙村 舜吉

ガバナー挨拶

R I 第2610地区ガバナー 大木 隆

狂 言 「末広かり」

乾 杯 パストガバナー 内田 一

ご祝儀 「鶴の舞」

懇 親

ロータリーソング「手に手をつないで」

点 鐘 金沢北RC会長 乙村 舜吉

2. 出 欠

出席63名 欠席20名

出席率75.90%

3. 他クラブ出席状況

金沢RC 85名

金沢東RC 69名

金沢西RC 58名

金沢南RC 67名

金沢北RC 63名

金沢香林坊RC 45名

金沢みなとRC 49名



